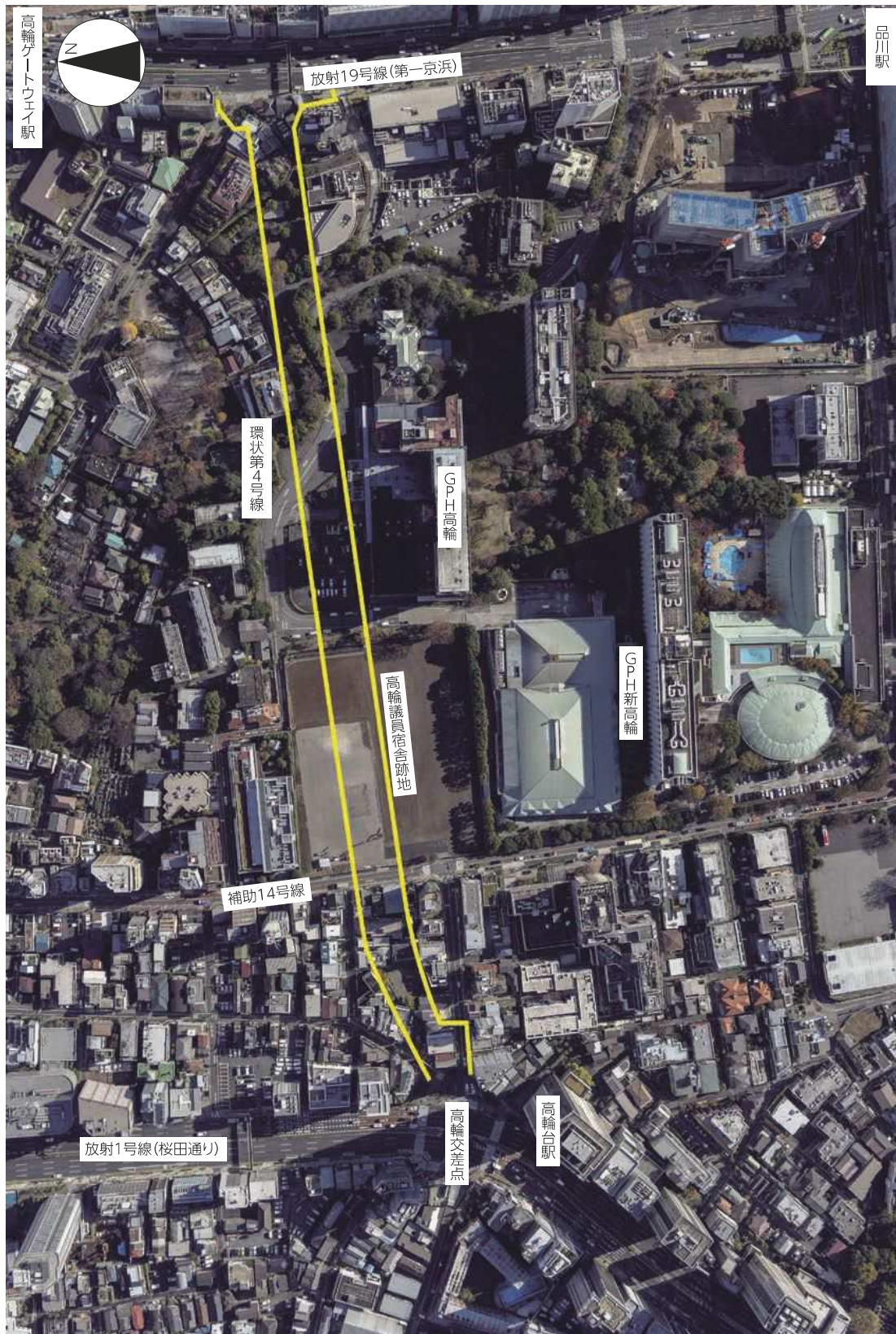


## 第 6 まちづくり手法を活用した道路整備



# 環状第4号線（高輪地区）



令和4年12月 撮影

## 1 環状第4号線（高輪地区）

環状第4号線は、港区港南三丁目を起点とし、江東区新砂三丁目に至る延長約29.9Kmの環状道路で、都市の骨格を形成する幹線道路の一つである。この道路は放射方向の幹線道路と連絡し、都心に集中する交通を分散化するなど重要な役割を担っている。

環状第4号線が整備される品川駅周辺地区は、羽田空港と近接しており、リニア中央新幹線の起点ともなることから、今後さらに拠点性が高まることが見込まれている。

そうした中で、環状第4号線（白金台・高輪・港南区間）の整備により、羽田・臨海部・六本木方面とのアクセスを向上させるなど、広域道路ネットワークの形成を図るとともに、開発に伴う交通処理を担うことが期待されている。

これまで、環状第4号線のうち唯一現道のない白金台交差点から新港南大橋交差点までの区間について、旧海岸通り～桜田通りについては令和元年7月、桜田通り～目黒通りについては令和2年12月に街路事業認可を得ることが出来た。

このうち、都市整備局では、桜田通り～第一京浜間（高輪区間）の調査、測量、設計等を実施し、早期完成に向けて事業を進めている。

令和4年度は、旧高輪宿舍跡地の構造物撤去等を進め、整地工事を完了させる。また、用地取得を進めるとともに、土地区画整理事業（沿道整備街路事業）についても着実に進める。

